

## 松河戸町の沿革

## 6 地名

## (1) 松河戸の地名

松河戸という地名は、「尾張国地名考」という江戸時代の書物に「此村往昔は玉野川下流の端にありて、松ある河戸也、故に呼但し河戸は河門にて川口といふがごとし…」とあることから松河戸の地名が付いたものと考えられています。

「尾張国地名考」にある河戸とは、庄内川沿いの低湿地を流れる排水路が庄内川に流れ込む河口のことで、この地方の方言で「ごうど」や「こうど」といいます。江戸時代の松河戸村絵図には東と西に堤防の切れ目があり、そこを排水路が流れていました。この水路の水門は片開きの大きな板戸で、通常は排水のため三分の一程が開放されていました。庄内川の水位が上昇すると水圧によって水門が閉じ、集落や田畑を守るようになっていました。

また、文化10年(1813)庄内川絵図には、松河戸村の堤防上に松並木がみられます。

以上の事情により松河戸の地名が付いたものと考えられています。

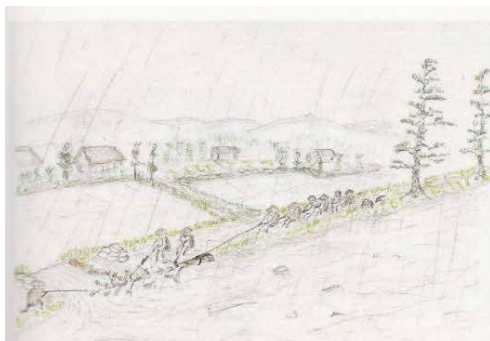


▲平成8年頃 くいちがい堤防 余所の地区では見られないが中切に1ヶ所、松河戸は東西に1ヶ所ずつあった。ここには大きな排水門があり、庄内川の水が増えたと自動で門が開き水は入らない。庄内川の水が引くと自動で門が開き部落内の水が流れでる。

現在の河戸跡(西)

春日井市広報春日井の地名物語より  
春日井市史 地区誌編

河戸……灌漑用水(かんがい用水)を取るために堤防に作った坎(入り)のこと  
松 ……堤防に水害を防ぐため松が植えてあった。



◀流し松 堤防には松が植えられていたが、これは「流し松」といい、増水すると伐って堤防に横たえ、水が直接に堤防に当たらないようにした。

写真と図表で見る松河戸 松河戸研究会から



## (2) 松河戸内の地名

- ① 河戸…………… 川口の意味か。
- ② 村中…………… 集落の中心地
- ③ 段の下…………… 西食違いの所であって、庄内川よりやや低い所 西
- ④ 一ツ橋…………… 別名つつみさき。西食違いの排水路に橋をかけて田畑へ渡った。 西
- ⑤ 安賀…………… 条里制地割の遺構が広く残っている松河戸の米作の一等地
- ⑥ 十二飛…………… 飛地でよく氾濫した所・小さな板を渡し耕作に出かけた。
- ⑦ 流れ…………… 昔、川の流れていた所
- ⑧ 巾川…………… 巾川の水で水田化された所
- ⑨ 町田…………… 一町歩区画の田が連なっていた所(条里制遺構)
- ⑩ 細木…………… 条理地割の長地型(100 メートル×10 メートル)が顕著に見られる。 西
- ⑪ 堤外…………… 庄内河川敷にあった畑を指す。現在はグラウンドとして利用されている。
- ⑫ 松河戸新田…現在の松新町
- ⑬ 熊山…………… 松河戸の西の隈の山の当て字か。
- ⑭ 小櫃…………… 字内の地籍は小さな筆に分かれている。小筆の当て字か。

古くからの民家は「小字河戸」と「小字村中」に集中しており、6つの島からなりたっていました。

集落の東にあたる河戸のあたりには、「道下島」、「中小路島」、「門田島」があり、観音寺を挟んで西にあたる村中には「八ツ家島」、「川原島」、「中島」の三つの島に分かれていました。

(昭和30年頃までは6つの島であったが、道下島は戸数が減少し5軒になったので、中小路と合併し「河戸島」となった。)

当地区には、下街道沿いの集落「松河戸新田」(松新)が所属していましたが、昭和23年に分離して現在は「松新町」として勝川地区商店街に含まれています。

また、昭和28年王子製紙の操業が始まると、地蔵川一带は工業系地区に指定され、その結果、松河戸の西部にあたる「細木」、「一ツ橋」、「段ノ下」などは、愛知電機工作所をはじめ、中小の工場群の進出がみられ、この地区は松河戸から分離し集落の景観も大きく変わりました。

かつて松河戸の美しい水田が広がっていた「小野」、「愛知」、「細木」、「町田」も町として分離し、最後まで残っていた松河戸の中心地域も区画整理によりかつての面影はなくなってしまいました。

しかし、かつての松河戸内の地名は、分離した町の町名として、また松河戸区内の公園の名前として残っています。

(注意)

「松河戸町の沿革」は、参考資料の記事を転記又は抜粋してまとめたものです。  
間違いや追加など補筆訂正がありましたらご連絡ください。

参考資料

春日井市広報春日井の地名物語より  
春日井市史 地区誌編